

ニュージーランド キウイフルーツの輸出が順調

[ASIAFRUIT 2024年9月23日](#)

ニュージーランドのキウイフルーツ輸出額は20%増の31億NZドル

ニュージーランド統計局が発表したデータによると同国のキウイフルーツの独占的輸出事業者であるゼスプリの収益が大幅に増加

ニュージーランド統計局が発表した新しいデータによると、2024年8月までの1年間にニュージーランドのキウイフルーツ輸出額は31億NZドル(17億4千万ユーロ)を超え、2022/23年度の同じ時期に比べて20%増加した。同局の国際貿易部長であるヴィキ・ウォード氏は、「今シーズンのキウイフルーツの輸出額は、これまでで最高である」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

「キウイフルーツの輸出シーズンは通常3月から11月である。」主にサンゴールドとして販売された果肉の黄色いキウイフルーツの輸出額は24億NZドル(13億5千万ユーロ)で、2023年8月までの1年間に比べて24%増加した。この成長は、輸出量が23%増加したことによるものとみられる。

一方、グリーンキウイフルーツの輸出額は7億3,700万NZドル(4億1,500万ユーロ)で、前年同期比9.9%の増加となった。この増加は、価格が9%上昇したことによるものとされている。

「ニュージーランドの生産者は、中国や日本などの市場でより大きな輸出額を獲得するため、ますます多くのゴールドキウイを植え、今ではレッドキウイを植えている。」

サンゴールドの最大の出荷先は中国で、主にゼスプリグリーンとして販売されたヘイワード品種の最大の輸出先は欧州連合であった。

執筆者: マイク・ノウルズ

米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2024-39 2024年9月23日 \(25日送信\)](#)

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病(HLB)検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病(黄龍病;HLB)の検疫規制地域を拡大する。拡大される地域は、サンディエゴ郡の約86平方マイルである。APHISは、サンディエゴ郡の住宅地から収集された植物組織のサンプルからカンキツグリーニング病が検出されたためにこの措置を講じるものである。この拡大の影響を受ける商業的柑橘類園地は830エーカーである。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動に安全対策を適用している。これらの措置は、CDFAが2024年9月16日に定めた州内の検疫と並行して行われる。この措置は、HLBが米国の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おつてこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)